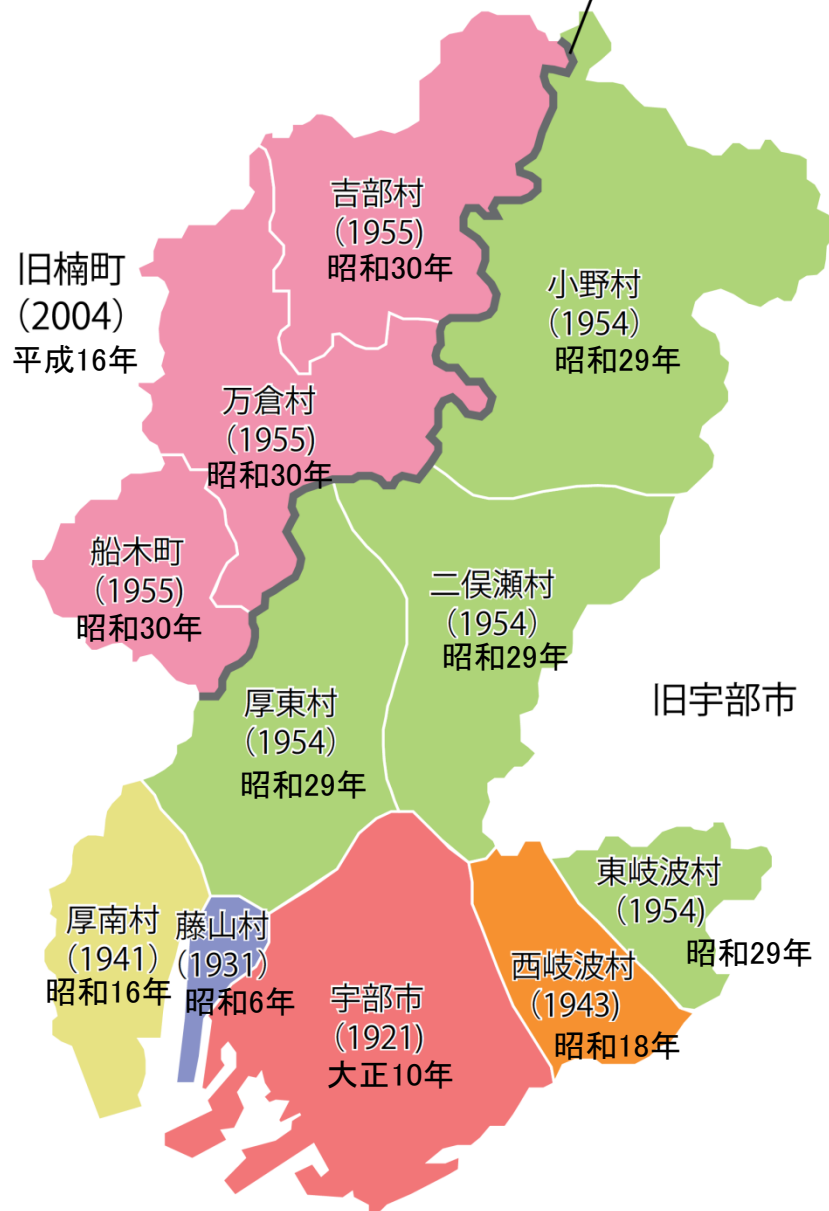


宇部市立地適正化計画の概要

宇部市 都市整備部 都市政策推進課

これまでの宇部市のまちづくり

() 内は市制施行年又は合併年
旧宇部市・旧楠町境界線

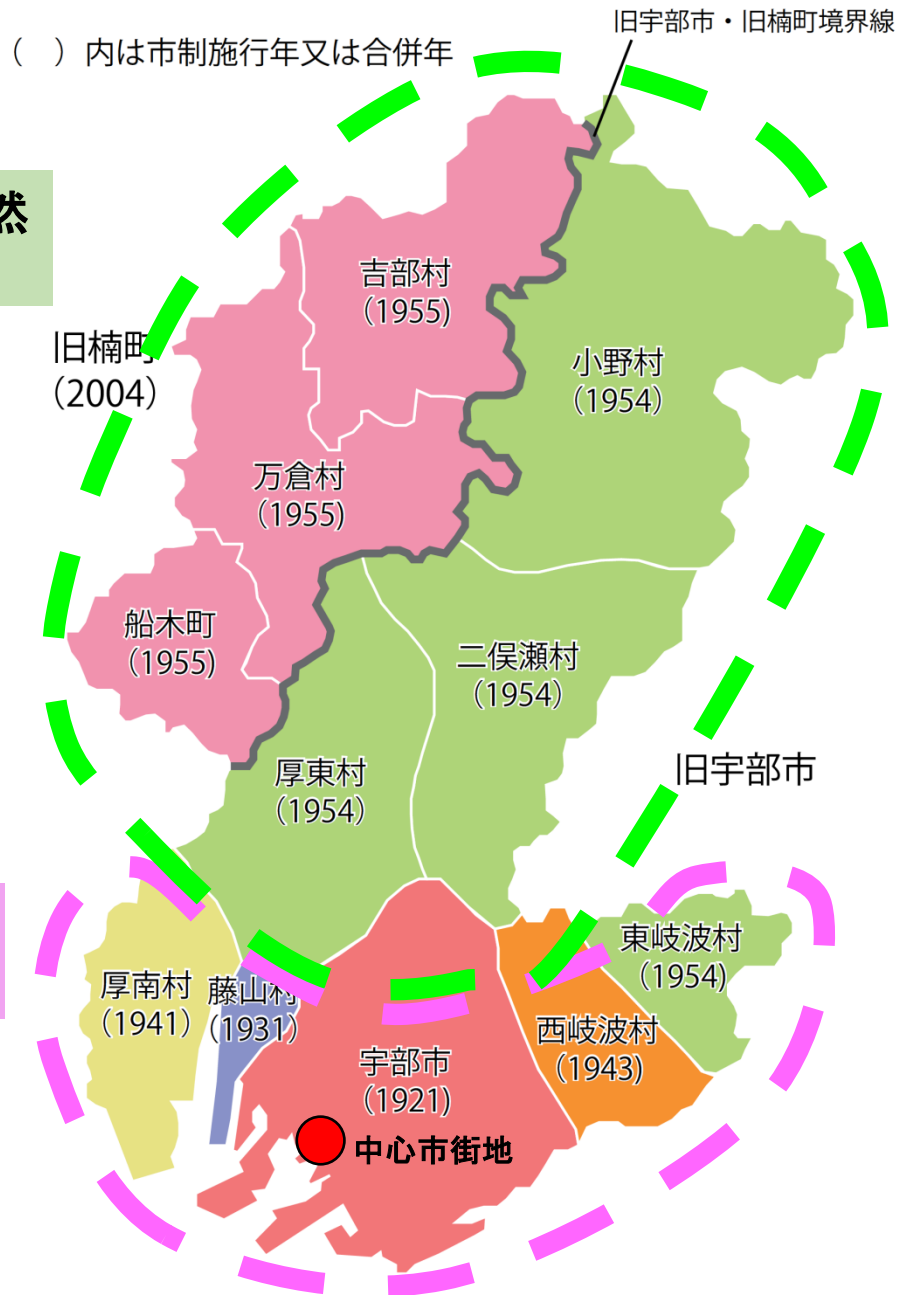


本市は、大正10年に市制を施行し、段階的に周辺の村や町と合併し、現在の市域が形成されている。

これまでの宇部市のまちづくり

市域北部の中山間地域は、良好な自然環境を保全

市域南部は、中心市街地の拠点性を高めるとともに、良好な市街地を形成

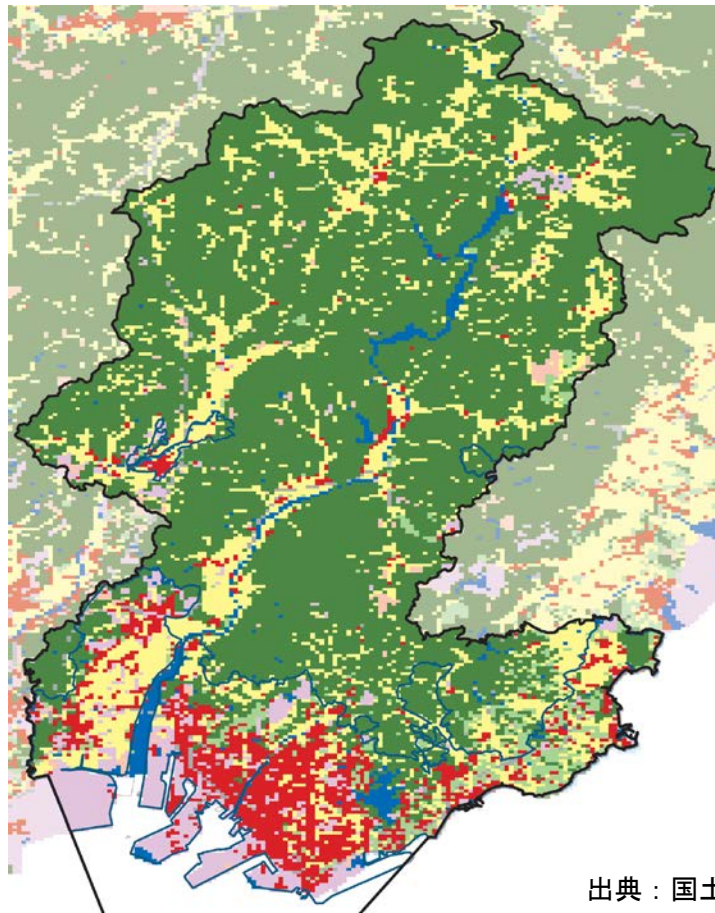


これまでの宇部市のまちづくり

■土地利用の変遷状況

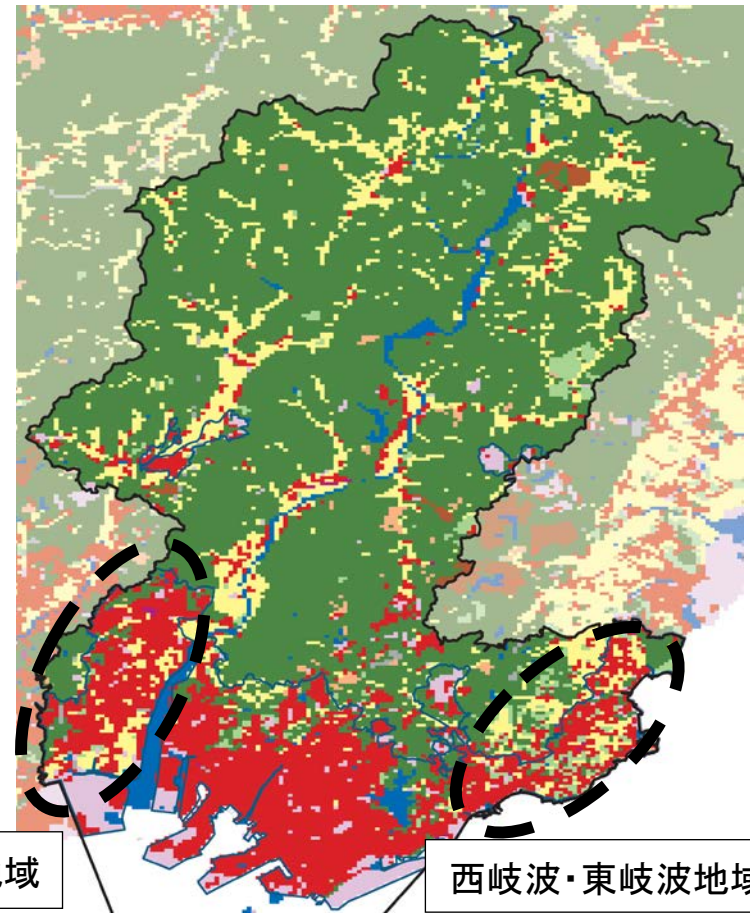
昭和51年(1976年) 人口 約17万人

平成21年(2009年) 人口 約17万4千人



凡例

- 市域界
- 用途地域
- 田
- その他の農地
- 森林
- 荒地
- 建物用地
- 道路
- 鉄道
- その他の用地
- 河川地及び湖沼
- 海浜
- ゴルフ場



出典：国土数値情報

厚南地域

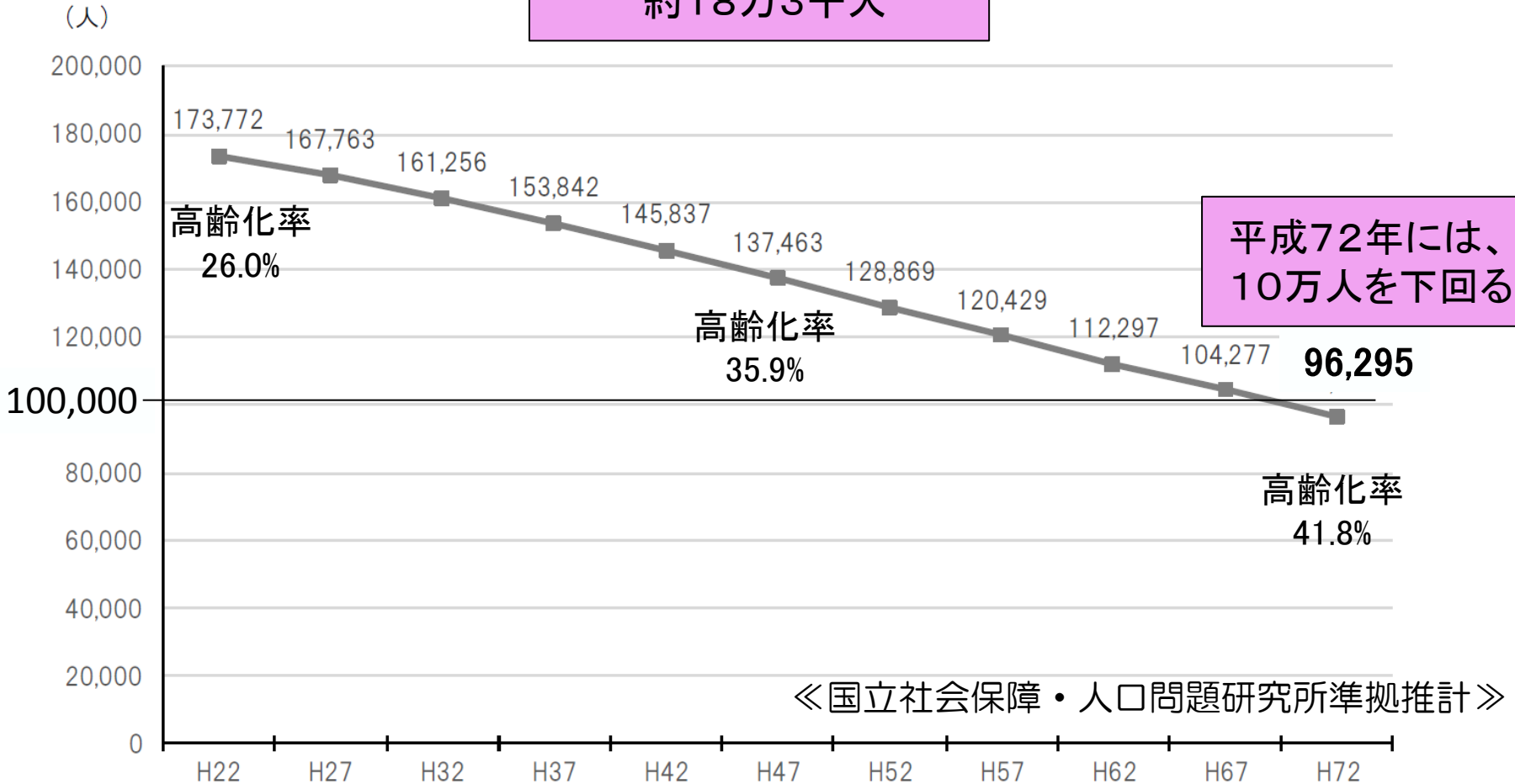
西岐波・東岐波地域

約30年間で建物用地が拡大している。特に西部の厚南地域や東部の西岐波・東岐波地域で拡大し、東西に広い市街地が形成されてきた。

宇部市の将来人口

■ 将来人口の予測

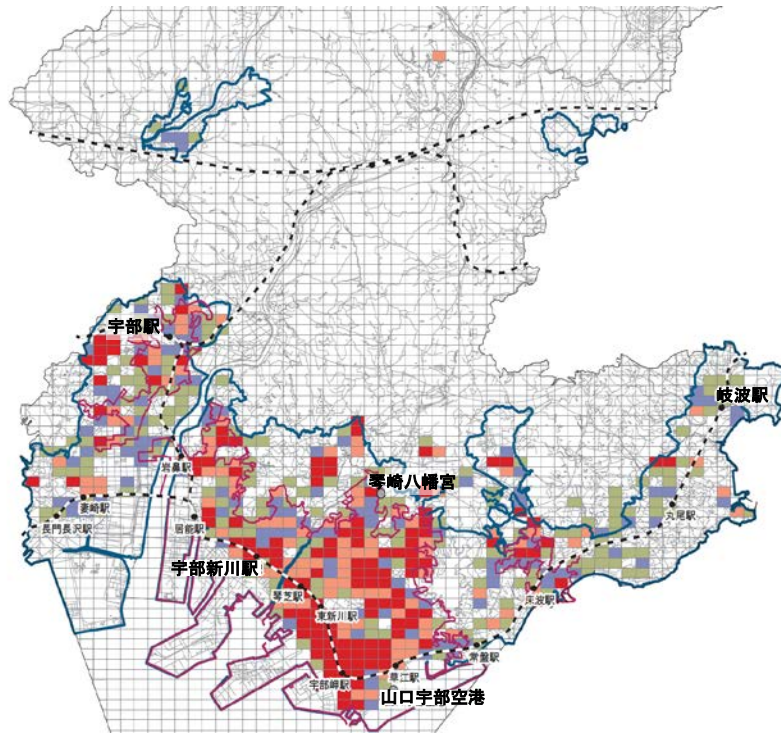
平成7年が人口のピーク
約18万3千人



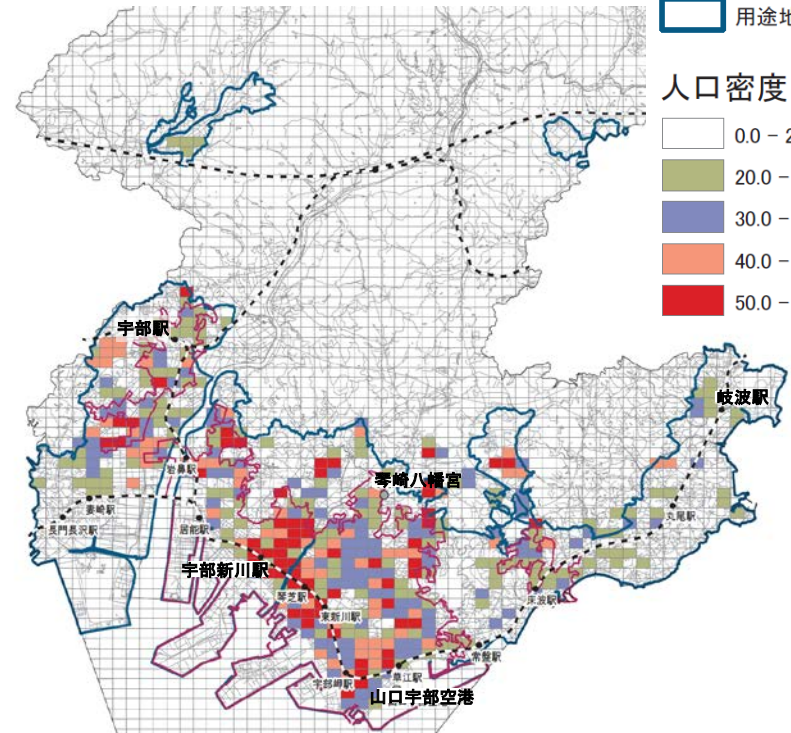
平成72年(2060年)には。人口が10万人を下回り、高齢化率は41.8%に増加することが予測される。

宇部市の将来人口密度

■市街地人口密度



現状の人口密度
平成22年(2010年)



将来の人口密度
平成47年(2035年)

凡例

- 市域界
- DID地区
- 用途地域

人口密度 (人/ha)

- 0.0 - 20.0
- 20.0 - 30.0
- 30.0 - 40.0
- 40.0 - 50.0
- 50.0 -

現在の市街地の多くは、人口密度40人/ha以上となっているが、昭和47年(2035年)には低密度化が進展することが予想される。

宇部市の課題

東西に広がった市街地で、人口が減少し、
人口密度が低下すると…… 高齢化が進むと……



一定の人口集積に支えられている既存の医療・商業などの生活サービス施設の経営が困難になり、市民の日常生活に支障が生じる可能性があります。

バス、鉄道の利用者が減少するため、公共交通の維持が困難になり、市民の暮らしが不便になります。特に、自動車を自由に利用できない高齢者にとっては日常の移動が困難になります。

道路などの基盤整備や行政サービスが非効率的になり、コストが増加します。



このままでは、宇部市が立ち行かなくなる可能性があります。

これからの宇部市はどうしたらいいのか？

持続可能なコンパクトなまちづくりを目指します。

「多極ネットワーク型コンパクトシティへ」の転換

これからの宇部市のまちづくり

■多極ネットワーク型コンパクトシティとは？



コンパクトなまちづくりをする効果は？



医療・福祉・商業施設の集約やバス、鉄道などの公共交通を効率的に維持することにより、市民の日常の暮らしやすさを確保できます。

歩いて暮らせるまちの実現により、市民の健康が増進し、環境負荷を軽減できます。

都市拠点である中心市街地の魅力の向上とにぎわいの創出により、市全体の活性化につながります。

公共施設整備や行政サービスの効率化により、行政コストの軽減につながります。

宇部市立地適正化計画とは

■「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を実現するための計画

①拠点等に都市機能を誘導する区域の設定(都市機能誘導区域)

医療・福祉・商業等の都市機能を都市の中心拠点や地域の拠点に誘導し、集約することにより、これらのサービスの効率的な提供を図る区域

②居住を誘導する区域の設定(居住誘導区域)

人口減少の中にあっても、一定のエリアで人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう居住の誘導を図る区域

③都市機能、居住を誘導するための施策の設定

誘導区域に都市機能、居住を誘導する施策

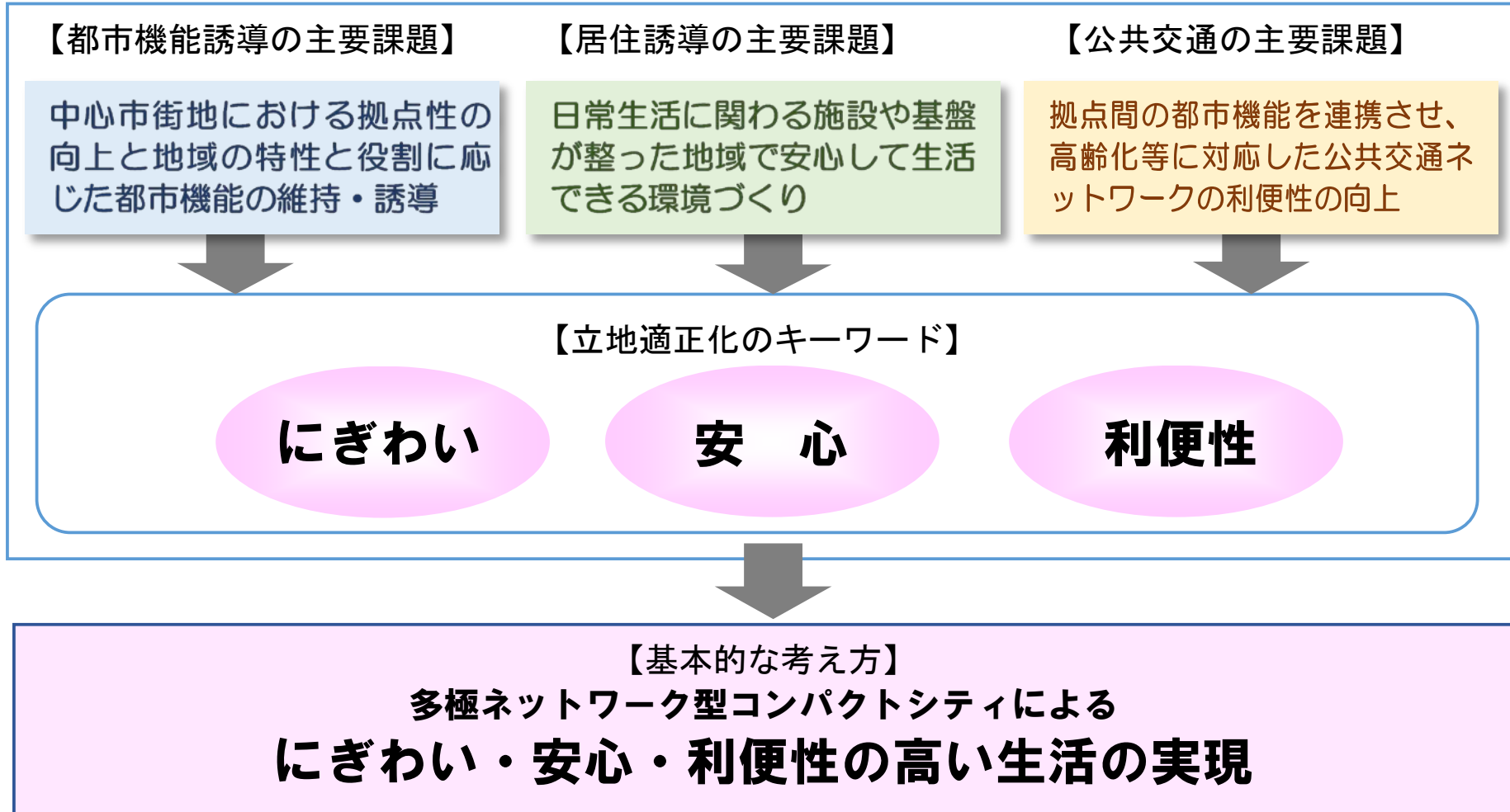
■平成27年度から平成29年度の3か年で策定

■計画期間は概ね20年後の平成47年(2035年)

■計画策定後は、緩やかに都市機能や居住を誘導

宇部市立地適正化計画の方向性（策定中）

■立地適正化の基本的な考え方



宇部市立地適正化計画の方向性（策定中）

■宇部市が目指す「多極ネットワーク型コンパクトシティ」

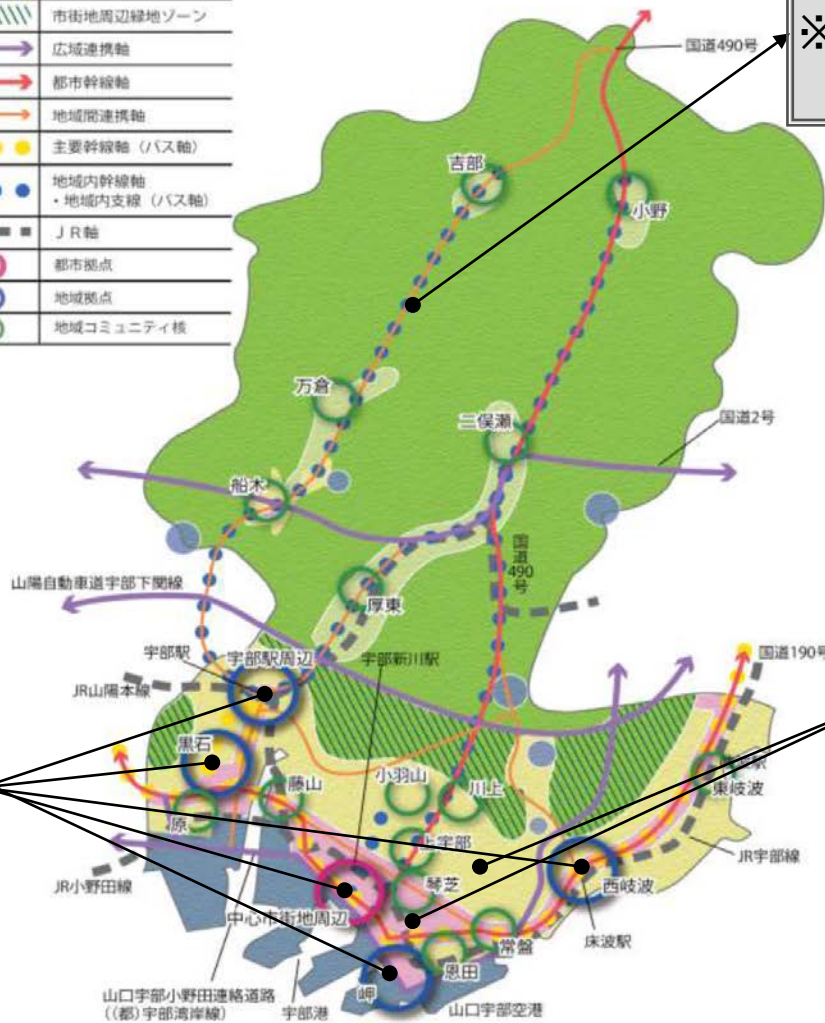
凡例

	商業・業務地ゾーン
	住宅地ゾーン
	産業・研究施設地ゾーン
	田園集落地ゾーン
	自然環境ゾーン
	市街地周辺緑地ゾーン
	広域連携軸
	都市幹線軸
	地域間連携軸
	主要幹線軸（バス軸）
	地域内幹線軸・地域内支線（バス軸）
	JR軸
	都市拠点
	地域拠点
	地域コミュニティ核



= 立地適正化計画で具現化する内容

○交通ネットワークの形成検討
※地域公共交通網形成計画と連携



○都市機能誘導区域の設定検討

○居住誘導区域の設定検討

都市機能誘導区域の方向性（策定中）

■ 都市機能誘導の方針

【都市機能誘導の基本的な考え方】

◆ 持続可能な都市を形成するため、都市や地域の顔となる拠点の求心性を高め、市全体の魅力と利便性の向上につなげる

都市機能誘導の方針

○ 各拠点のターゲットを明確にし、拠点の特性と必要性に応じた都市機能の配置

○ 交通拠点や公共施設を中心に歩いて暮らせるまちづくりの実現

○ 都市や地域の中心として多様な市民が利用する施設の維持・誘導

都市機能誘導区域の方向性（策定中）

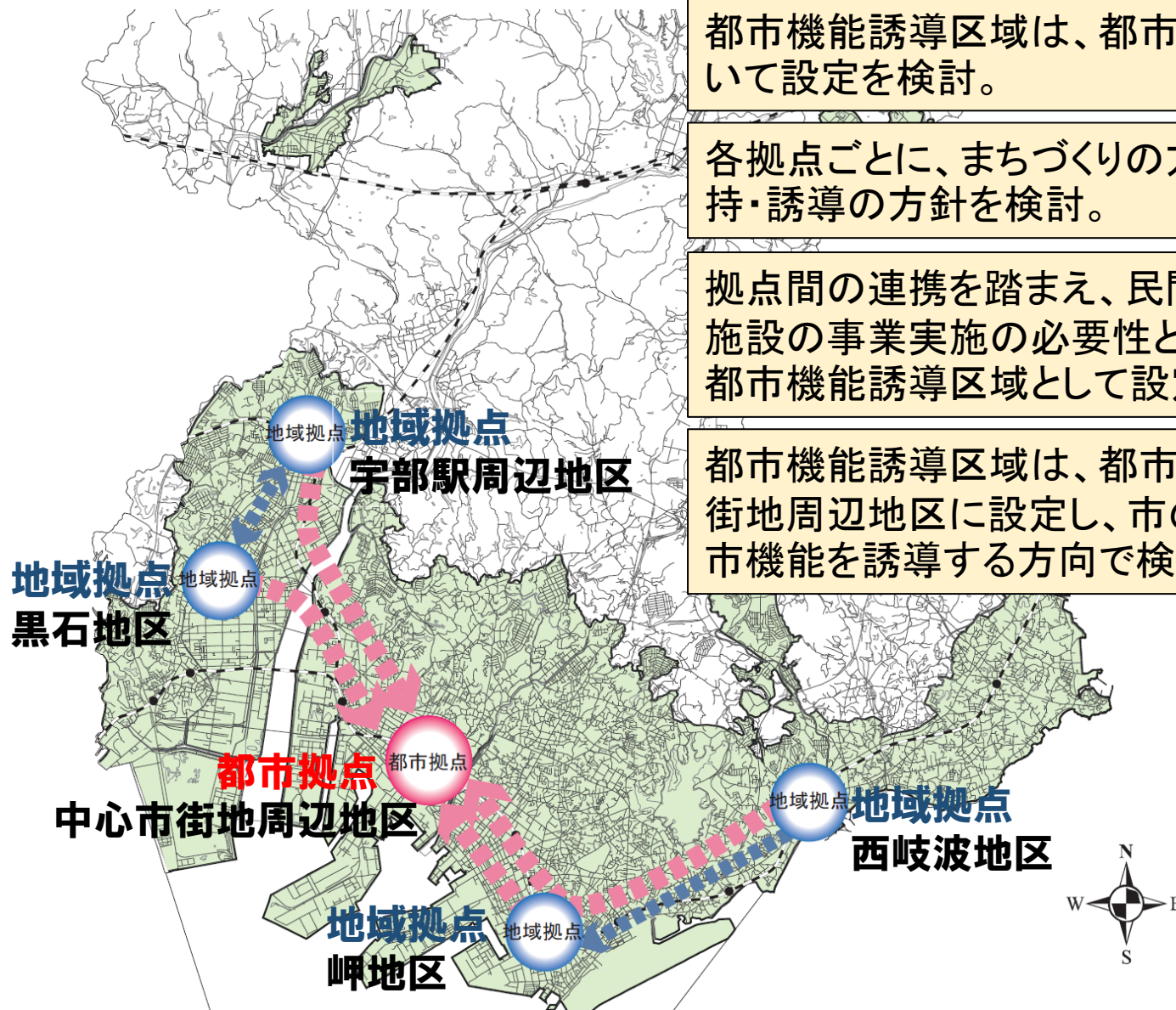
■都市機能誘導区域の検討

都市機能誘導区域は、都市拠点、地域拠点について設定を検討。

各拠点ごとに、まちづくりの方針、都市機能の維持・誘導の方針を検討。

拠点間の連携を踏まえ、民間の施設誘導、公共施設の事業実施の必要性和効果が高い拠点を都市機能誘導区域として設定する方針。

都市機能誘導区域は、都市拠点である中心市街地周辺地区に設定し、市の中心、顔として都市機能を誘導する方向で検討中。



居住誘導区域の方向性（策定中）

■ 居住誘導の方針

【居住誘導の基本的な考え方】

◆無秩序な郊外化を抑制するため、交通利便性・生活利便性が高い地域の周辺に居住を誘導することで、歩いて暮らせるまちづくりを実現する

居住誘導の方針

○都市拠点・地域拠点や将来も人口集積が見込まれる地域への居住誘導



人口集積性

○高齢者等が移動しやすく、安心して暮らすことができるまちを目指し、交通利便性が高い地域への居住誘導



交通利便性

○日常生活を歩いて暮らすことができるまちを目指し、生活利便性が高い地域への居住誘導



生活利便性

○自然災害からの安全性確保や住工混在による住環境悪化の抑制による良好な住宅地の形成



居住安全性

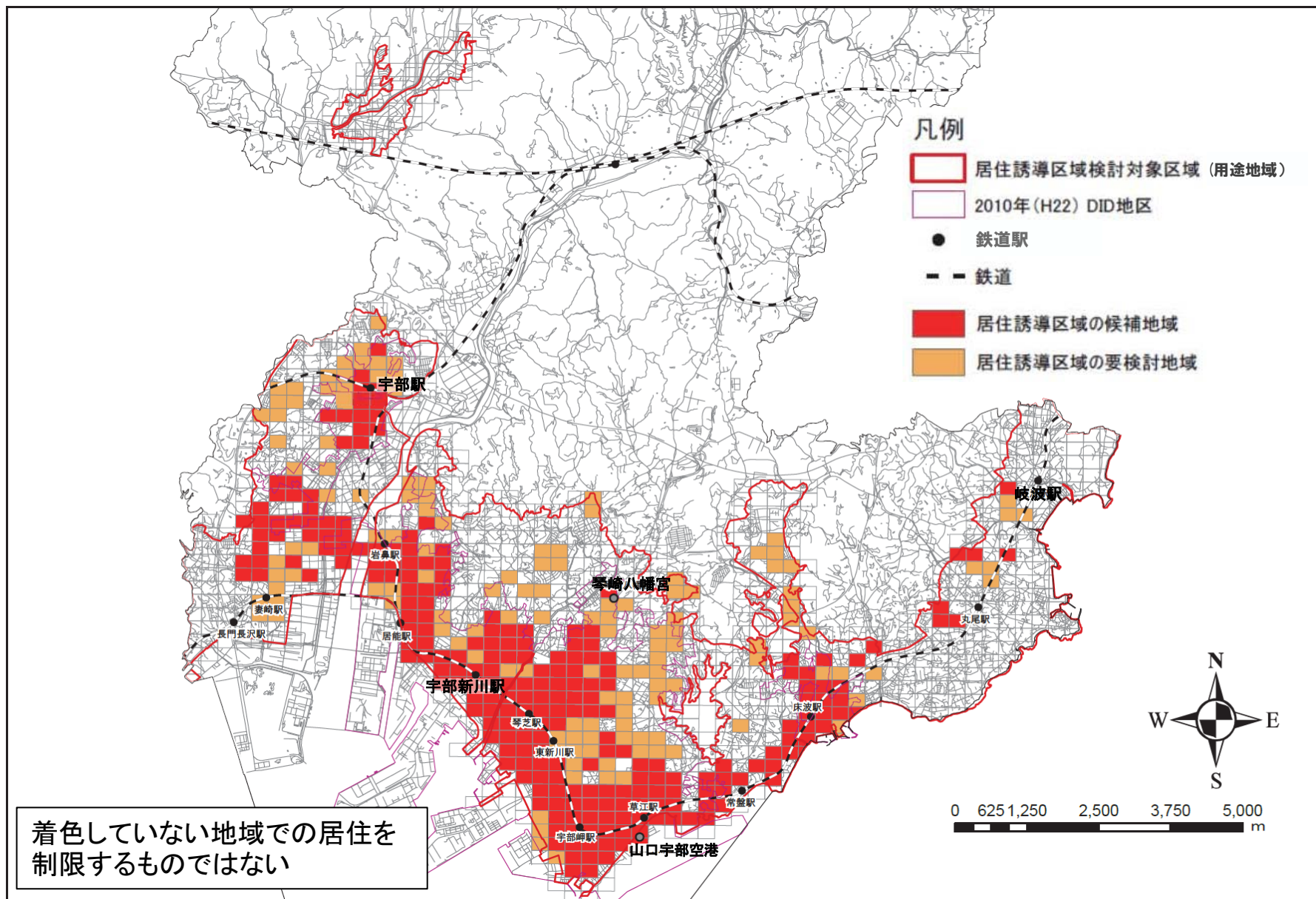
○郊外部は山林や田畑などの自然的土地利用の保全とゆとりある住環境を維持



土地利用

居住誘導区域の方向性（策定中）

■ 居住誘導区域の検討



今後の予定

- 都市機能誘導区域・居住誘導区域の素案作成
- 都市機能・居住を誘導するための施策素案作成



平成29年 2月以降 市民・事業者説明会



宇部市立地適正化計画素案のとりまとめ



平成29年夏 パブリックコメント



平成30年3月 宇部市立地適正化計画 策定



緩やかに都市機能や居住を誘導し、持続可能なコンパクトなまちづくりを進めていく

御清聴ありがとうございました